

令和6年度 学校評価

「あきた型学校評価システム」  
による自己評価

令和7年3月

秋田県立西目高等学校

## 目 次

学校経営方針及び今年度の重点目標	1
------------------	---

### 系列

文理系列	2
農業科学系列	3
土木系列	4
ビジネス会計系列	5
教養文化系列	6

### 業務部

総合学科部	7
総務部	8
教務部	9
生徒指導部	10
進路指導部	11
特別活動部	12
図書部	13
保健環境部	14
研修部	15
情報視聴覚部	16
農場部	17

### 学年部

1年部	18
2年部	19
3年部	20

### 教科

国語科	21
地歴・公民科	22
数学科	23
理科	24
保健体育科	25
芸術科	26
英語科	27
家庭科	28
情報科	29
農業科	30
工業科	31
商業科	32

# 学校経営方針および今年度の重点目標

## 1 教育目標

「自彊不息の精神のもと、心豊かで高い志にあふれる人材を育成する。」

- (1) 自ら学ぶ意欲を培い、情操豊かで創造性に富む人間の育成を図る。
- (2) 勤労と責任を重んじ、郷土の発展に貢献する人間の育成を図る。
- (3) 心身ともに健康で、思いやりのある心豊かな人間の育成を図る。
- (4) 社会の変化に柔軟に対応し、逞しく生き抜く人間の育成を図る。

## 2 教育方針

- (1) 豊かな人間性を育み、社会を生き抜く資質と能力を育成する。
- (2) 基礎学力の定着と、専門的知識や技能を身に付ける。
- (3) 総合学科の特色を生かし、多様な能力や適性に対応した教育を推進する。
- (4) 地域に信頼される活力に満ちた魅力ある学校づくりに努める。

## 3 今年度の重点目標

「主体性を育み高い志を実現させるキャリア教育の推進」

- (1) 基本的生活習慣を確立させ主体性を育てる
  - ① 自ら進んであいさつができ、他者の気持ちになって生活できる。
  - ② ルールの重みを考え、いかなる場面でも、主体的に行動できるようにする。
- (2) 高い志を持った進路目標の達成
  - ① 新しい技術に順応しながら進路実現できる学習習慣を確立させる。
  - ② 学校を取り巻く先輩方の講話を開き自己啓発を図る。
- (3) 探究活動と特別活動の融合
  - ① 探究活動と体験的な学習活動をリンクさせ充実を図る。
  - ② 学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動への積極的な参加を促す。
- (4) 総合学科としての新しい地域連携
  - ① 地域社会の発展に寄与するため、地域のために何ができるか模索させる。
  - ② 自身が関わっている地域を愛する心を育てる。

評価領域	文理系列
------	------

重点目標	普通教科の科目を中心に選択し、人文・社会・自然科学分野の基礎を学び理解を深めるとともに、受験に対応できる能力と態度を養成する。		P
現 状	明確な目標を早期（低学年）に設定できずに、3年次で安易に進路を変えてしまう生徒はいるが、早い時期から明確な進路目標を持ち努力しようとする生徒は徐々にではあるが増えているように思える。		
具体的な目標	(1) 進路目標に対応した、適切な科目選択の指導・助言に努める。 (2) 受験に対応できるわかる授業を目指して、生徒の実態や進路希望を踏まえた指導法を工夫する。 (3) 課外補習や添削等の個別指導、各種試験の事前・事後指導を徹底する。 (4) 学習ガイダンスや科目選択、模試分析等を通じて、教科・学年・進路指導部の連携を支援する。		
目標達成のための方策	・面談の充実（志望先や学習状況についての確認・助言） ・模擬試験等の有効活用（個別の成績状況の把握、各教科の事前事後の指導） ・受験に関する知識・情報の提供（幅広い選択肢からの適切な選択）		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	課外補習、模擬試験、個別教科指導、面談指導などの個別指導は計画的に実施できた。1，2年生に対しての進路に向けたガイダンスもそれぞれ実施できた。		D
達成状況 (1～2月記載)	模擬試験は事前事後の指導もしながら実施できた。長期休業中の補習への生徒の参加率も高かった。3年生の多くは目標を最後まで下げずに粘り強く頑張っている。		
自己評価 (1～2月記載)	B	以前よりは進路指導部と連携を持ちながら運営できたと感じる反面、各教科・学年との連携が十分に取れなかった。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた    B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	やるべき事が明確で生徒にとって取り組みやすい環境が提供されている。一年次で目標設定の確立を図ることで、他校に劣らずスムーズな対応ができるようになる。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	1，2年次での進路実現に向けた様々な取り組みをもう一度見直し、内容の充実を図っていききたい。特に、生徒が自分の進路に真剣に向き合っていけるようになるために、どのような企画や情報提供が有効なのか考えていききたい。また、個別対応としての面談もより充実させていく必要があると感じる。		A

評価領域	農業科学系列
------	--------

重点目標	県や地域振興局（地元篤農家）と連携し、未来の農業者としての勤労観・職業観の育成を目指し、的確な進路選択ができるようにする。		P
現 状	3年生は農家出身者が3名おり、就農希望者もいる。ただし、他業種への就職後の就農希望である。2年生は将来的に農業に携わる進路希望者は2名。1年生はまだ明確には決めてはいない様子ではあるが、就農に興味のある生徒は数名いる。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 県農林部と連携し、高度化事業をなるべく多く企画する。</li> <li>(2) 地域振興局と連携し、就農セミナーや地元起業や篤農家と連携したインターンシップを行う</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 高度化事業を三つ以上企画し、生徒達に選択の幅を広げる研修を行う</li> <li>(2) 各種就農セミナーやインターンシップへ参加し、直接農業体験をすることで就農の魅力や農業の現状を理解させる。</li> </ul>		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 高度化事業を5つ企画・参加。これにより就農についての知識を深めることができた。特に、1・2年生は進路の一つに就農も考えたいという生徒が増えた。</li> <li>(2) 就農セミナーやインターンシップにより、本校では授業体験できない『畜産』や『果樹』の体験ができた。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 高度化事業参加により、1・2年生が就農に興味を持つ生徒が増えた。また、新1年生も農業科学系列の選択者が増え、少しづつ「将来は就農という選択肢も有り」と答える生徒も増えた。</li> <li>(2) 就農セミナーには全員が参加し、進路の一つに就農やフロンティア研修を考えるという生徒達が増加した。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 高度化事業の参加により、就農の様々な方策を知ることができた。農業系の専門学校に1名進学し、将来は就農の予定である。また、林業大学の進学者も出せた。</li> <li>(2) 就農セミナー・インターンシップに参加して終了ではなく将来的な就農について継続して取り組んでいきたい。</li> </ul>	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	大企業の農業分野参入から「農業の可能性」は益々広がっているため、農業に興味を持って貰える指導をお願い致します。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<p>農業は後継者難の状態なので、一人でも多く就農に結びつける指導が地域から求められている。</p> <p>アグリセミナーや就農セミナーを行い、地域振興局や県農政部、地域企業と連携したインターンシップを行い、農業系の進路に結びつけるような指導を展開していく等、工夫した取組をしていきたい。</p>		A

評価領域	土木系列
------	------

重点目標	地域振興局と由利建設業協会と地域との連携を密にし、明確な進路意識や職業観の育成を目指し、工業（土木系）への積極的な進路選択ができるようにする。		P
現 状	昨年は公務員3名であった。今年度は2名の希望者がおり、県外の公務員を希望している生徒もいる。地元定着を見据えて、1年次から目標を定めて着実に学力を高める必要がある。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職と公務員希望者全員第一希望への合格</li> <li>・授業を展開しながら国家試験合格者を全国平均より高い測量士補40%、2級施工管理技術80%の合格率の達成をめざす。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域振興局と建設業協会連携した事業を実施し体験させる。</li> <li>・これまで3年次から取り組んできた資格取得を1年次からの授業で取り入れられるような授業展開をする。</li> </ul>		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の就職希望者との面談を実施する。地域行事の測量大会や現場見学を年間で2回以上実施できた。公務員由利本荘市土木、秋田県庁土木職への合格を達成することができた。</li> <li>・ジュニアマイスターブロンズ、ゴールドを達成することができた。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	コロナ禍前の平成30年に測量士補合格者7名以来1名合格することができた。2級土木施工管理技術5名合格することができた。今後も更に新しい仕掛けを試みていきたい。		
自己評価 (1～2月記載)	B	国家資格をコロナ前の合格者数と同数の合格者数とすることとジュニアマイスター受賞者を増やすことを目標としたい	C
評価基準	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	由利本荘市でも今後即戦力となる技術者、管理者の育成は急務であると感じている。活躍を期待したい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	2年次より公務員模擬試験を受験させて自分の実力を熟知し不得意分野を克服できるように指導している。普段の授業から公務員試験に対応した分野は特に時間をかけて理解できるまで何度も繰り返し学習するように指導している。2年次の1月から就職希望者の面談を実施し保護者の意見、本人の希望を聞いている。国家資格合格率を上げるために時間を多く取り入れて対策していきたい。		A

評価領域	ビジネス会計系列
------	----------

重点目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会での健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育てる。		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識の差はあるが、自分ができることを考え、お互いに協力して解決しようとする姿勢がうかがわれる。</li> <li>・自分の役割を考えて行動している。</li> </ul>		
具体的な目標	(1) 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2) ビジネスに関する課題を発見し、自ら学び職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面を想定し、話し合いをすることで、より効果的な成果が出せるようグループ内でのディスカッションを進める。</li> <li>・実践を通してコミュニケーションの大切さ等を体験する。</li> </ul>		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生では販売実習の企画と実現のための活動を進めていき、様々な問題に対する解決方法を考えながら進めていく。</li> <li>・2年生は、起業体験プログラムで、第三者に対するプレゼンテーションの大切さを理解する。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	3年生の販売実習では、地域との連携を通じて達成感を感じることができた。2年生はプレゼンテーションの大切さを理解し、企業体験プログラムで賞をいただくことができた。		
自己評価 (1～2月記載)	A	地域連携や起業体験など外に出て活動する機会が増え、生徒にとってはとても新鮮な経験ができたと感じている。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	プレゼンテーションの大切さを理解し賞をいただいたことは生徒の自信につながったと思う。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	地域連携や起業体験は生徒にとっては外部との関わりを持つ貴重な体験だと考えている。今後も継続して実施して、経験値を高めていきたいと思う。また下級生の見本となれるよう積み重ねた経験値を残していきたいと思う。		A

評価領域	教養文化系列
------	--------

重点目標	社会的教養を高め、多様な生活や文化について総合的に学び、地域社会に貢献できる知識と意欲および実践力を身につけさせる。		P
現 状	選択できる科目はおおむね生活科学・芸術・その他教養という範囲が主体である。進路意識が未確立のまま選択する生徒も多いが、教養文化を選択した後で短大・大学進学を考え始める生徒も一定数いる。		
具体的な目標	能力適性、興味関心等の自己理解に努めさせ、進路目標を明確にさせる。生徒・保護者への積極的な情報提供に努め、適切な進路・科目選択を実現する。教科・科目間の連携を強め、一人一人の進路に合わせたきめ細やかな指導を充実させる。		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系列ガイダンスでの詳細な説明</li> <li>・各教科科目における授業内での意識向上と実践的授業の実施</li> </ul>		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術や家庭等の専門科目に関しては選択の幅を増やすことで生徒の意識とのマッチングを改善している。</li> <li>・カリキュラムに関しては文理系列との共通化を進めることで選択者人数を確保できるように工夫している。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	選択科目を増やすことによって、専門科目・普通科科目ともに生徒の意識も改善している。		
自己評価 (1～2月記載)	B	現状では多様な選択をある程度可能にしているが、教員定数の減少もあり、この状態を維持できるかが課題である。	C
<p>評価基準 A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>			
学校関係者評価と意見	B	生徒の学びたい気持ちを大切にできる限り環境面の整備をお願いしたい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	教養文化系列は希望に応じて総合的に選択することが出来る仕組みがある程度整備されているが、生徒数の減少に伴う教員減もあり、少人数の選択科目を開設することが困難になってきている。来年度の2年生からは文理系列と合体した授業も増えてきており、文理・教養共に選択者が少ない科目を開設できる余地が多少は拡大してくるのではないかとと思われる。		A

評価領域	総合学科部
------	-------

重点目標	(1)総合学科としての特色を生かす。 (2)多様な選択肢から、自分の進路を考えられる主体性を育む。 (3)キャリア教育の視点から進路実現に繋がる教育を行う。 (4)総合学科の円滑な運営を行い、生徒の活動の充実をはかる。	P
現 状	(1)各系列における学びの充実をはかっている。 (2)系列・科目選択指導を学年部と連携して行っている。 (3)学年部、進路指導部等と連携して学力向上、進路指導を行っている。 (4)生徒が地域の発展に寄与する活動ができる環境を整えている。	
具体的な目標	・目標達成のために適切な系列および科目を選択させる。 ・本校の活動を地域に知ってもらい、地域社会との連携を深める。	
目標達成のための方策	・科目選択に関するガイダンスの充実と指導の徹底をはかる。 ・「新志芽通信」を年度内で12号以上発行する。 地域産業祭（ゆりほんマルシェ）へ積極的に参加する。	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	・各系列主任および学年部と協力し、系列・科目選択について生徒への指導を徹底した。1年生には系列移動可能図を示した。 ・学校行事だけでなく、各学年や系列実施の行事について「新志芽通信」で情報発信を行った。地域産業祭に参加した。	D
達成状況 (1～2月記載)	・系列・科目選択は問題なく行った。 ・「新志芽通信」は12月までで22号を発行し、目標を達成した。 地域産業祭では販売品目を増やし、生徒が活躍できた。	
自己評価 (1～2月記載)	A 総合学科部として、系列・科目選択、校内外への情報発信など、業務全般をしっかりと行うことができた。	C
評価基準	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	A 目標を達成できたのは生徒たちにも良い影響を与えている。今後もさらなるレベルアップをしてほしい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後)	・生徒が本校で有意義な学びを得るために、系列・科目選択がとても重要である。生徒が納得のいく選択ができるよう、学年部と連携して丁寧な指導を行う。 ・情報発信、地域での生徒の活躍の場を増やすことに関しては、今年度の取り組みをベースに、より充実したものになるように工夫していく。	A

評価領域	総務部
------	-----

重点目標	関係諸機関との連携を図りながら、学校行事および渉外業務を推進し、PTA・同窓会が円滑にかつ効果的に機能するように努める。		P
現 状	(1) 行事関係に関しては、先々の予定を見通して準備・調整を進めており、滞りなく遂行できている。 (2) PTA活動・同窓会活動においても計画している事業の実施のために準備している。		
具体的な目標	(1) 学校行事の円滑な運営を図り、充実した成果を収めるように努める。 (2) PTA役員等を通じて保護者との連携強化を図り、的確な情報発信に努める。 (3) 学校・PTA・同窓会との密接な連絡調整に務める。		
目標達成のための方策	・ 諸規定集やマニュアルの周知と改訂をすすめる。 ・ 学校配信システムの有効活用、HPの更新などに努める。 ・ 進路指導部と連携して、生徒の進路活動にPTAや同窓会の協力を依頼する。		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	・ 学校安全計画、危機管理マニュアルの改訂版作成。内規の見直しの検討依頼。 ・ 「すぐる」登録状況の掌握、出欠連絡および緊急時対応での活用。 ・ PTAの例年活動に加えて就職面接指導、学校祭の出店等の協力。 ・ サッカー全国大会応援に関わる同窓会・PTAの取り組み。		D
達成状況 (1～2月記載)	・ 総務が主催する学校行事等では現在まで滞りなく進行できている。 ・ PTAによる学校活動への参加機会を新たに作る事ができた。 ・ 同窓会総会がコロナ禍以来で再開でき次年度へのつながりができた。		
自己評価 (1～2月記載)	A	目標が概ね達成できていると考えている。PTA・同窓会の活動をさらに拡充していきたい。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	いろいろと困難もあったと思いますが、多くの目標に取り組み、成果を上げたことは評価されることだと思います。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	校内業務に関しては例年を踏襲する形で年間スケジュールができており、見通しをもって滞りなく実施できる。ただし、学校安全計画や危機管理マニュアル等は毎年の点検・更新が必要である。 PTA活動では、年毎に役員の温度差が生じてしまうことは否めないが、西目高校独自の取り組みについては継続的に実施し参加者の拡大に努めていきたい。 同窓会活動についても組織の再構築に積極的に関わっていきたい。		A

評価領域	教務部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習環境の整備と授業時数の確保に務める。</li> <li>・効果的な教育課程を編成する。また、そのための各種統計資料等の分析をする。</li> <li>・各種システム（校務支援、すぐーる、AI 採点）の操作方法に関する研修を行う。</li> <li>・新教育課程に対応した評価について、職員の共通理解を図る。</li> </ul>		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座数が多いため授業交換が難しく、交換できない授業は自習で対応する科目が多くある。</li> <li>・日々の出欠を入力し忘れてたり、成績処理でミスがみられる。</li> <li>・教科や教員間で評価に対する考え方に差がある。</li> </ul>		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず自習とする場合には課題等を準備する。</li> <li>・校務支援システムを活用して、出席把握や成績処理を確実に行う。</li> <li>・評価に関して他校の取り組み状況に関して情報収集する。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科担任が自分の授業に責任を持ち、課題を準備する。自習監督も責任を持って指導する。</li> <li>・各システムの運用に関して操作マニュアルを作成する。</li> <li>・本校の現状に照らして取り入れられるか検討する。</li> </ul>		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自習課題の準備などは比較的良好であった。特に急な自習になっても classroom で対応する教科があった。</li> <li>・操作マニュアルを随時更新した。</li> <li>・各教科間の評価に対する考え方について検討した。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容の充実に各担当者が取り組んでいた。</li> <li>・ソフトの更新があった場合にマニュアルも更新した。</li> <li>・生徒の状況に合わせた評価に難しさを感じた。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	A	システムの長所や短所について理解が進み、それぞれのよさを見いだした。評価の難しさはずっと続くので、各教科間の考え方などをよく理解したい。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた    B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	システムに対する理解が深まっている。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	システム理解については継続して取り組む。また、他校と連絡を取り、システムの更新情報に対してアンテナを高くしたい。 評価に関しては観点別評価と評定の整合性や公平性を保てるように研究を継続したい。		A

評価領域	生徒指導部
------	-------

重点目標	挨拶・言葉遣い・整容・立ち居振る舞いの指導を徹底し、基本的生活習慣の確立に努める。また、問題行動が起こらないよう、情報発信や生徒の観察をする。		P
現 状	一定数の遅刻する生徒がみられる。また、整容については一部にやや乱れている感がある。対策の一つとして、毎朝昇降口でのあいさつや整容の指導を実施したり、節目の時期を中心に整容検査を実施し身だしなみの指導をしている。 人間関係のトラブルはみられるが比較的初期の段階で把握・対応できている。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整容指導や挨拶等に関する日常の指導を継続して行う。</li> <li>・問題行動を未然防止するための情報発信や生徒の観察をする。</li> <li>・いじめアンケートの実施と事後指導をきめ細かく行う。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師間で共通理解を図り、情報を共有して全職員で指導する。</li> <li>・各学年部や各分掌との連携を密接にし、問題やその兆候があった場合は迅速かつ適切な対応をする。</li> <li>・アンケートや面談などによる生徒の状況把握を積極的に行う。また、職員間で情報を共有し、速やかに協力しながら対応する。</li> </ul>		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の昇降口指導に積極的に関わってくれる教員が多く充実している。</li> <li>・SNS等のトラブルに関する情報発信を集会等で行っている。</li> <li>・年2回のいじめに関するアンケートを実施している。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻や整容の乱れは一定数は見られる。</li> <li>・SNSをきっかけとしたトラブルは数件見られる。</li> <li>・いじめに関しては比較的初期の段階で把握できていると思われる。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	B	SNSやいじめについては、大きなトラブルには至っていないが、これらについては初期対応が大事なので生徒が発する些細なサインを見逃さない体制が必須だと思う。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの問題は年々複雑化していると思うが、その中で生徒自身からの声をキャッチすることは簡単ではないと思う。初期対応が改めて大事だと感じているが、同時に少なからず限界もあると思う。</li> <li>・挨拶や整容などの基本的な生活習慣は社会に出て本人が困らないような指導を。</li> </ul>	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめについては、大きなトラブルには至っていないが未然防止策が不十分である。ただ、即効性のある未然防止策は容易に見当たらないこともあるので、様々な方からアドバイス等をいただきながら試行錯誤していきたい。</li> <li>・基本的な生活習慣の指導についても、場当たりの指導が続いているように思う。意図的・計画的な指導ができるよう改善していきたい。</li> </ul>		A

評価領域	進路指導部
------	-------

重点目標	『自彊不息』の精神を忘れず、自己を励まし、継続して努力を続けることで、社会の変改に対応して生き抜くことのできる人材を育成する。		P
現 状	全体としては、まだ総合学科や専門系列の強みを十分に生かし切れていないとは言えない。また、個人としては自己理解や他者理解、思考力が不十分である。そのため、主体的に進路目標を設定したり進路先を研究したりすることができず、安易な方向に流されやすい傾向がある。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な進路活動を促し、進路達成率100%を実現する。</li> <li>・総合学科の特色を生かした入試での大学進学者や就職者を増やす。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ等を効果的に活用しながら「理想」と「現実」の距離感を生徒と教師で共有し合い、問題解決のために取り組んでいく。</li> <li>・就業体験や各種進路講話を通じて専門性を生かせる進路先の情報を伝えるなど、その魅力を積極的に発信する。</li> </ul>		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	進路希望に関係なく、本校教員による補習や外部講師による対策講座を実施した。特に就職希望者に関しては、実際に企業の方に来校していただいて模擬面接会を実施した。		D
達成状況 (1～2月記載)	先生方の熱心な御指導のおかげで、就職希望者に関しては11月に全員が進路先を決めることができた。進学希望者に関しては、数名の一般試験受験者を除いては合格を決めている。		
自己評価 (1～2月記載)	B	分野によっては素晴らしい成果が出たものもあったが、全体的には、不合格の生徒への対応に関して課題を感じる。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	生徒に対する取組自体は一定の効果を上げているが、その取組や進路情報が、保護者にうまく伝わっていない現状がある。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	会の資料では、どの段階の進路指導に関する情報が保護者に伝わっていないかが明確ではなく(学校全体なのか?それとも学年や三者面談等での担任からの情報なのか?)、改善策を講じるのことに正直難しさを感じている。全体であれば「進路通信」、学年や担任であれば、進路指導に関する職員研修などの充実が考えられるだろう。ただし、生徒への対応で目一杯な部分もあり、進路指導部内での仕事の割り振りや、研修のための時間の確保についても考える必要があると思う。		A

評価領域	特別活動部
------	-------

重点目標	望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図ることができる。西目高校生として誇りを持って校内外で躍進しようとする積極的な態度を身につける。		P
現 状	HR 担任・部活動顧問の働きかけによって、全体的には学年を追って生徒の心身の成長が見られる。部活動は生徒数減少の影響もあり厳しい状況である。諸学校行事においては、生徒会執行部をはじめ各委員会の意欲的な参画が見られるなど、組織的な取り組みがある。		
具体的な目標	(1) 学校行事、生徒会活動、部活動などへの生徒の積極的参加を促し充実させる。 (2) 生徒会活動や部活動を通して、整容面や行動面の生活向上を促進し、社会人として求められる力を育ませる。 (3) ボランティア活動など地域貢献・社会参加の活動推進を図る。		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 年生全員の部活動体験の実施。</li> <li>・ 新志芽祭において生徒会執行部を中心としたルール作り。</li> <li>・ 全校の連帯感を強めるための全校応援の実施。</li> <li>・ ボランティア活動の情報発信と呼びかけによる参加者の広がり。</li> </ul>		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 年生全員の部活動入部体験。</li> <li>・ 各種学校行事の計画と生徒の自主的活動の促進。</li> <li>・ 壮行会、全校野球応援、全校サッカー応援の実施。</li> <li>・ 運動部活動の大会報告会の実施、賞状伝達式による奨励。</li> <li>・ ボランティア委員会による奉仕活動のアナウンス、実施。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	特別活動部の担当者間で日程や内容を適宜検討しながら、予定通りに実施できている。部活動加入率は伸び悩んでいるものの、部活動や諸学校行事、課外活動を通して、西目高校生として誇りを持ち躍進しようとする積極的な態度が見えた。		
自己評価 (1～2月記載)	B	多岐にわたる年間行事に対し担当者を割り振ったが、各種行事や活動を充実させるほど、担当者の負担が大きくなった。学年や他の分掌との連携は図られたと考える。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた    B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	生徒数が減少する中でも、部活動や学校行事への生徒の満足度は高く、取組の成果が伺える。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	生徒数減少にともなって部活動加入者数も減ってきており、部活動に参加することのメリットをどのように伝え、どうやって加入率を上げるかを生徒・職員全体でアイデアを出し合い、盛り上げていきたい。また、生徒会費も収入源となる中で充実した各種行事を実施するための工夫を、生徒会と連携を図りながら進めていきたい。		A

評価領域	図書部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科学習に結びついた図書館の運営</li> <li>・生徒の健全な教養と自学能力の育成の援助</li> </ul>		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の生徒の利用はあるが、読書習慣が身につけている生徒は少ない。また、一人1台端末が浸透した現在、探究的な活動や教科横断的な活動において図書館が利用される機会は、ほとんどないと言える。図書館機能のあり方について再考が求められる。</li> </ul>		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書・学習・資料のセンターとしての整備</li> <li>・読書ならびに文化的活動の機会提供</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用の仕方について、オリエンテーションを実施する</li> <li>・図書委員会の活動の一環として、一般生徒へ利用を働きかける。</li> <li>・教員への働きかけにより、系列や教科におけるニーズの掘り起こしを図る。</li> </ul>		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生を対象に、国語科と連携してオリエンテーションを実施した。</li> <li>・図書委員会企画として、3年生を対象に五行歌コンクールを実施し、図書館報で紹介した。</li> <li>・1年生を対象に、国語科と連携してビブリオバトルを実施し、図書館報で紹介した。</li> <li>・図書委員会企画として、オススメ本のPOPを作成した。学校祭で展示するとともに、他校図書委員会とのPOP交流も実施した。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月のオリエンテーション時や2年生の探究活動等で一時的に本の貸出は微増するものの全体的な利用増加には至っていない。</li> <li>・職員への働きかけやレファレンスサービスは不十分だった。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	B	図書委員会活動の充実が、生徒の意識付けや成長、次年度への意欲につながった。しかし、図書館利用や貸出本の増加には至っていない。継続的な取組が必要である。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状維持するにも様々な取組が必要である。</li> <li>・スマホ時代であっても読書が人生の糧になることを伝えていく必要がある。</li> </ul>	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで同様読書の推進を図るだけでなく、一人1台端末の時代に相応しい情報メディアセンターとしての図書館の在り方を模索する</li> <li>①図書委員会の活動を中心に、全校生徒に図書の紹介や読書の推進を働きかける。(POP制作、ビブリオバトルなど)</li> <li>②課題研究や進路研究で指導する際の一助となるような図書館活用法を、教職員に向けて示す。</li> </ul>		A

評価領域	保健環境部
------	-------

重点目標	生徒の健康保持増進のため健康管理体制を確立し、生徒の主体性を育て保健教育を推進する。		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の心身の健康に対する意識が低く、健康な状態や自己管理のしかたに関する理解が浅い。心身の望ましい状態や衛生的な環境への気づきを促す必要がある。</li> </ul>		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康検査等を通して生徒の健康状態を把握し、検査事後措置の徹底を図る。</li> <li>他分掌や教科との連携を図り、健康や環境に対する生徒の意識向上を図る。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会活動の活性化と適切な清掃活動を促す。</li> <li>保健だより、SCだよりを発行する。</li> <li>専門家、専門機関による指導内容を職員間で共有する。</li> </ul>		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>養護教諭をはじめ保健委員会や生活美化委員会の顧問が中心となって、意識の啓蒙と校内の環境美化に努めた。</li> <li>保健だより、SCだよりを定期的に発行した。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>検診等は日程の変更等はあったものの滞りなく終了した。</li> <li>保健室やスクールカウンセラーの利用増加に伴い、教員間の情報共有も活発化した。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症の感染拡大を防ぐために、迅速に対応できた。</li> <li>生徒の健康や環境整備に対する意識は、依然として低いので地道な啓蒙活動が必要である。</li> </ul>	C
<p>評価基準 A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>			
学校関係者評価と意見	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員間の情報共有や感染防止できたことは評価できる。</li> <li>今後も感染症対策と教育環境の維持を万全にしてほしい。</li> </ul>	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の心身の健康促進や教育環境の維持を目指し、多方面から効果的な働きかけを展開する</li> <li>①保健および生活美化委員会が中心となって、生徒に働きかける。</li> <li>②関係者の情報共有を適切に行う。</li> <li>③校内環境について、生徒に対して継続的指導を要する事項や対応可能な改善策など、課題を整理する。</li> </ul>		A

評価領域	研修部
------	-----

重点目標	校内外での研修成果を共有して教育活動への活用を図り、組織的な授業改善を推進するとともに、教員の資質向上に資する。		P
現 状	全学年が新教育課程に沿って授業展開や評価の改善等の取組を進めることになる。各系列での実習や各団体との連携の中で、自主的に考え行動する「探究型授業」への取り組みが進められている。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学科の内容を教師が理解し合い、互いの教科指導に反映し、生徒の多面的な学びにつなげるよう研修を進める。</li> <li>・生徒自らICTを積極的に活用できるように、教員のスキルアップを進める。</li> <li>・授業アンケート結果を有効活用する。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、系列の取組状況を教員相互が体験する。</li> <li>・教科理解を深めるだけでなく、生徒相互の発想・発表など様々な場面でICTの活用を進める。</li> <li>・進路指導など各種取組と連携し、生徒の学ぶ意欲を高める。</li> </ul>		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の枠を越えてお互いの授業を体験し、生徒理解と共に授業改善へも繋げた。</li> <li>・授業アンケート（前期、後期）の実施。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・由利本荘地区小中学校教員の校種間連携研修実施。15名参加。</li> <li>・初任者、中堅教諭等資質向上、実践的指導力習得等各研修の実施。</li> <li>・救命救急講習会（教員、運動部員参加）の実施。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	A	農業・土木・商業・理科・英語など多くの教科の授業発表の機会を得て研修を進めることができた。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	校内外の研修会や講習会へ積極的に参加し知識を活用できたことに成果を感じます。教員の資質向上は必須です。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	本校は次年度以降も各研修該当教員が多いのではないかとと思われる。各系列生徒への対応や多様なカリキュラムの授業を展開しつつ、研修がスムーズに進むよう、研修部として援助してゆきたい。 本校教員の研修を深める意味でも、本校の取組を広める意味でも、様々な教員との協働の学びの機会を生かして行きたい。		A

評価領域	情報視聴覚部
------	--------

重点目標	校内LANの管理に努め、利用しやすい環境を整える。 各分掌・教科との連絡を密にして、情報教育の推進と情報機器の活用に努める。 総合学科の特色を地域に発信する環境整備を推進する。		P
現 状	業務系に校務支援システムが導入され、共有フォルダがクラウド化された。 GIGAschool は定着しつつあるが生徒端末の経年劣化が激しい。		
具体的な目標	業務系・GIGAschool 系校内LANの継続的な管理 GIGA_school と GoogleClassroom の授業・生徒把握への活用 学校 HP 等を利用した校内外への情報発信		
目標達成のための方策	GIGA_school 端末やアクセスポイントの管理と整備 chromebook や電子黒板などの使用に関する技術的な支援 授業や日常の活動に classroom を活用することによるスキル向上		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	正規の授業以外にも学校行事などで Chormebook 端末を使用する機会が増えるように技術的な支援を行った。校務支援システムの利用も定着しており、デジタル採点システムも活用されつつある。		D
達成状況 (1～2月記載)	生徒の端末に関する取り扱い方は改善しており落下等による破損も減っているが、経年劣化による破損が多く使用不能機が増えることが予想される。GoogleClassroom を利用した生徒への連絡や課題の配布も一般化しつつあり、不可欠なインフラとして定着している。		
自己評価 (1～2月記載)	B	ICT 端末を使用する上での問題点はあるが、あらかじめ出尽くしており、徐々に定着しつつある。	C
評価基準	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	情報通信機器の正しい使用法を指導してほしい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	GIGAschool も四年目となり、生徒の使い方に関する問題はあるが各教科で定着してきている。今年度は不注意による落下破損は減少してきたが、機材の経年劣化が進んでおり 2026 年度末の使用停止までに必要台数を確保していく必要がある。2025 年度入学生からの BYOD 化に向けての運用方法も検討していきたい。校務に関しては電子化が進んでいるが、紙ベースのものや元がデジタルのものを PDF 化しなければならないものも残っており、まだ改善の余地があると思われる。		A

評価領域	農場部
------	-----

重点目標	農業学習の実践の場として、農場実習や農場施設・設備の充実を図る。また、地域との連携を図り、先進的な農場運営に努める。 ※サツマイモ（ニューハイファーム）、水田（折林ファーム・櫛引稲作生産組合）また、教員の知識・技能の向上の為、研修に参加する。		P
現 状	作物：「ひとめぼれ」と「めんこいな」の生産 野菜：砂地を利用した野菜栽培（サツマイモ等） 草花：春の苗物、冬の鉢物の栽培 研修：農場運営との関係で、研修に参加する機会を得ることが難しい		
具体的な目標	作物：一等米の評価と食味Aの評価 野菜：サツマイモ栽培の労力削減 草花：切り花の栽培 研修：各部門等に関連する研修への参加		
目標達成のための方策	作物：重点的に肥料管理を行い倒伏防止 野菜：黒マルチ栽培で除草作業の軽減 草花：切り花の試験栽培 研修：県教委、県農林部との連携を密にする		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	作物：4.8ha の内、3.3ha「ひとめぼれ」1.5ha「つぶぞろい」作付け。夏場の溝切りと水田内の除草等を丁寧に行った。 野菜：サツマイモの畝は全て黒マルチ栽培した。畝間は管理機と場所によっては人手で行った。 草花：ドライフラワーなどによる鑑賞期間の延長 研修：サキホコレ研修会、産業人材育成研修会への参加		D
達成状況 (1～2月記載)	作物：「ひとめぼれ」「つぶぞろい」とともに一等米の評価を頂いた。 野菜：黒マルチ栽培により、除草作業の軽減することができた。 草花：試験的にプリザーブドフラワーを作成することができた。 研修：産業人材育成研修会では『農業データ』の活用方法など、現場で活用できる研修となった。		
自己評価 (1～2月記載)	A	作物・野菜部門で地域連携（折林ファーム、ニューハイファーム等）を図ることができた。これにより実物を活用した授業展開が飛躍的に向上した。また研修では、現場で使用している機器を発展的に活用する技能を獲得できた。これらのことを次年度にも活かしたい。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価 と意見	A	より実践的な農業を体験できたと思います。この地域の企業として西目高校との関係を深めていきたい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 (学校評議員会終了後記載)	①生産したものを販売する喜びを味わって欲しい。 ②この地域の企業として西目高校との関係を深めていきたい。 等の意見から、今後も地域連携を深めながら、地域へ販売等も継続して行っていき、更に地域や、保護者・中学生に発信できるようマスコミにも注目されるような取組を行っていきたい。		A

評価領域	1年部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣の定着を図り、実社会で活躍するための礎を築く。</li> <li>・ 進路実現に向けて必要な資質や能力の醸成を図る。</li> <li>・ 自らの役割を理解し、主体的に活動する力を育む。</li> </ul>		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 礼儀正しくしっかりと挨拶が出来る生徒が多い。</li> <li>・ 明るく、他者への心配りを欠かさない生徒が多い。</li> <li>・ 物事を成し遂げるために粘り強く取り組む姿勢が不足している。</li> </ul>		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々の授業や学校行事に礼節を持って取り組み、己を高める努力を欠かさない生徒を育てる。</li> <li>・ 学校生活の様々な場面で、与えられた役割を理解し、誠実に果たすことの大切さを理解させる。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝学習から帰りの清掃まで、決められた時間を守る、他者への挨拶を欠かさず行うことを意識した指導を徹底して行う。</li> <li>・ 生徒の長所を学年部全体で共有し、適切な役割を与えることで、物事を成し遂げる喜びを実感させることで自己肯定感を高める。</li> </ul>		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が時間厳守や自分から挨拶をしているかを教員が確認するのではなく、教員が自分から挨拶をし、時間を守ることを実践した。</li> <li>・ 生徒の良い点やクラスの様子、生活状況などをスプレッドシートを使って学年部全体で共有して日々の生活指導に活かした。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自ら進んで挨拶をしたり、授業開始前に着席しているなど、当たり前前を当たり前前実践する生徒が多くなった。</li> <li>・ サツマイモの定植や新志芽祭、職場施設見学等を通して、自分の役割をしっかりと果たそうと努力する生徒の姿が見られた。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	B	各担任・副担任が意欲的に生徒の指導に取り組んでくれており、生徒の精神的な成長が色々な場面で見られた。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	幼さが残る年頃だが、色々な事に挑戦し多くのものを吸収してもらいたい。今後の成長に期待します。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	重点目標にある基本的な生活習慣の定着及び集団の中での役割を理解し、主体性を持って活動する力を育ませることを念頭に学年部職員が一体となって指導に取り組んでくれたと思う。評議員の方々の意見にあるように、精神的に幼さが残る生徒も多いが、卒業後は社会の一員として働いていけるよう、今後も職員間の意思疎通を欠かすことなく指導に励み、心身共に成長させていきたい。		A

評価領域	2年部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心と体を鍛え、規律のある生活ができる。</li> <li>・思いやりと協調性を持って周囲と人間関係を築くことができる。</li> <li>・語彙力を高め、将来の進路実現の基礎を身につける</li> </ul>		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調不良で欠席する生徒が多い。</li> <li>・人間関係のトラブル絶えず、他人を尊敬できない。</li> <li>・朝学習で読書習慣が定着している。</li> </ul>		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として元気に挨拶ができるようになる。</li> <li>・学校行事等を通じ、他人を尊重し協力して取り組む姿勢を育てる。</li> <li>・進路意識を持たせるため、学校関係者以外の人をふれあう。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段から積極的に生徒に声かけをし、信頼関係を構築する。</li> <li>・担任を中心とした個性あるクラス経営を実現する</li> <li>・「新志芽学」で職業人としての考察を深めさせる。</li> </ul>		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任等が個々の生徒に目配せし、行動を確認・声かけをする。</li> <li>・各担任が自分の思いを生徒に伝え個性あるクラス経営を実現する</li> <li>・インターンシップ、修学旅行、就職セミナー等で進路を考察する。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生徒の行動を確認・声かけを実施している。</li> <li>・修学旅行をきっかけに個性あるクラス経営ができています。</li> <li>・インターンシップが大きなきっかけであったが進路を考察できた。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	B	各クラスごとに差はあるとは考えているが、具体的な目標は達成できていると思う。	C
評価基準	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた    B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	残り1年で社会人となる自覚と自身の進路を確実に見据えて1日1日を過ごして欲しい	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	春から最高学年になる自覚を持って生活できるよう学年全体で個々人と向き合っていきたいと考えている。 まずは進路実現に向けて学力向上と自宅学習の定着、朝学習の定着を図っていきたいと考えている。 そして進路決定への選定・実現をはかりたいと思う。		A

評価領域	3年部
------	-----

重点目標	(1)進路希望実現に向けて、主体的・継続的に学習や情報収集に努めることができる。 (2)思いやりや協調性、配慮のある言動で周囲とよりよい人間関係を築き、安心・安全な学校生活を送ることができる。 (3)最高学年の自覚を持ち、あらゆる分野で他学年の模範となることができる。		P
現 状	・学校外では場をわきまえた行動ができるが、校内での日常の学校生活では幼い思考による行動、発言がまだ見られる場面がある。 ・進路希望実現に向けて、主体的な学習や情報収集を始めている。		
具体的な目標	(1)進路に関する情報を積極的に収集させ、きめ細かな準備や計画的な学習を継続させる。 (2)場に適した振る舞いや身だしなみ、ルール・マナーの遵守を実践させる。 (3)日々の学習や部活動、学校行事等に主体的・意欲的に取り組む中で、生徒一人一人の自己有用感や学年の一体感を育む。		
目標達成のための方策	・進路指導部と連携し、面談や個別指導を適切な時期に行う。面接練習を通して振る舞いやルール・マナーの遵守を徹底する。 ・保護者との面談や説明、依頼等、継続的に密に連携を取り合う。		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	・進路指導部、各系列、各教科等との情報交換や情報共有など、密に連携を取って進路指導を実施した。面接練習等、進路指導を通して、話し方や礼儀作法、ルール・マナー指導を徹底した。 ・保護者への進路面談は早期に、また状況によって複数回実施した。		D
達成状況 (1～2月記載)	・進路指導主事や職場定着就職支援員のきめ細かな指導と、多数の先生方の手厚い指導により、生徒は概ね順調に進路志望を叶えている。 ・日常的に保護者との連携を密に取ることができており、協力にとっても感謝している。今年度は生徒の面接練習もしていただいた。		
自己評価 (1～2月記載)	A	進路志望達成の努力を通して生徒は成長してくれた。一部幼さが残る生徒がいるが、卒業まで声をかけ続けていきたい。	C
評価基準	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	それぞれの進路で成人としての自覚をもち、感謝の気持ちを忘れずに、厳しい社会の中で励んでもらいたい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	・修学旅行やインターンシップ等、外に出ると場に応じた言動ができるが、日常生活においては、幼い言動や自分本位の行動が目につく生徒も多く、日々粘り強い指導が必要である。 ・進路指導部のきめ細かな先導と、各担任のクラス経営のおかげで、生徒は進路活動や学校行事に概ね主体的に取り組んでいたが、イベントや提出物等の精選の必要性は感じる。 ・生徒について、担任が日常的に保護者と密に連携を取り、保護者と良好な関係が築けていた。		A

評価領域	国語科
------	-----

重点目標	生徒一人ひとりが確かな読解力と自分の考えを的確に表現する力を身につけられるよう支援する。		P
現 状	与えられた課題をタブレット端末を利用して調べたり、解答したりすることには長けているが、時間をかけて読んだり書いたり、じっくりと考えて結論を導いたりすることが苦手である。語彙力や理解力に生徒間の開きがあり、目標設定の照準化が難しい。		
具体的な目標	「すぐに模範解答を求める（解答を写す）」「考える前に友達に聞いたり、パソコンで答えを調べたりする」から脱却させ、「(間違いを恐れず) まずは自分で考える」態度を育てる。		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見発表やプレゼンの機会に慣れさせ、自らの考えで導き出した意見、提案に対して奨励し適切に評価する。</li> <li>・短文を書く練習からはじめて、最終的には比較的長めの文章を書くことにもチャレンジさせる。</li> <li>・模範解答自体の分析を通して、自らの解答と比較検討する習慣を身につけさせる。</li> </ul>		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用しながら意見交換や発表形式を取り入れている。</li> <li>・主体的に取り組む態度でも一定の割合で高く評価する。</li> <li>・単元毎に、ある程度の分量の書く課題や感想を提出させている。</li> <li>・科内での指導案、模擬授業の検討会。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業展開の方法や有効なICT活用法は今後も継続して研究する。</li> <li>・授業アンケート（生徒）の結果によれば、生徒自身の自己評価、授業に対する評価、ともに高い数値で出てきており概ね満足できる。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	A	生徒の理解度や気質の変化に応じて、現在の取組を継続させていく。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	おこなった取組に対して生徒自身からも高い評価を表したことに成果を感じます。継続的な指導をお願いします。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	昨年度に引き続き社会的な理解力・読解力・表現力の育成を重要事項として授業実践を心がけている。他と協働して課題を発見したり解決したりするような問題提起をしかけて、自発的に学ぶ環境を作っていくたい。同時に、その学習課程や成果を適切に評価する基準を科内で意思統一することも必要である。調べ学習や意見交換する場面においてもICTを積極的に活用できるよう、教員側も研修を積んでいきたい。		A

評価領域	地歴・公民科
------	--------

重点目標	(1) 基礎的・基本的事項の定着を図る。 (2) 生徒の主体性を重んじ、この充実を図る。 (3) 現実の社会的事象について興味関心を抱かせる。		P
現 状	<p>↓</p> 考查で得点することだけに意識が向かい、その考查でも選択肢がないと得点できていない。深く学ぶことに興味を持つことができない。		
具体的な目標	<p>↓</p> 就職試験や社会人となってからの生活に必要なとされる基本的な知識・教養のほか、物事の背景など深く考える力をつける。		
目標達成のための方策	<p>↓</p> 電子黒板やタブレット等の活用を通じて社会的事象に関する興味関心を高めるとともに、教員と生徒との対話を活発に行うことで、思考を深める。中学校の内容と高校の内容のほか、現代につながる話を結びつけて深く考えさせる。		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発問、生徒による授業内容のまとめ、調べもの、課題提出等は ICT を駆使して生徒の評価に活用している。</li> <li>・ 必ず中学校の内容に触れる場面を作って、関心を深めている。</li> <li>・ 現代の内容に結びつくように授業を行っている。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中の対話や授業内容のまとめは理解を深めることにつながり、生徒の理解度がよくわかり、次の授業につなげることが出来ている。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	B	生徒に関心を持たせ、深く考えさせることに関しては、前進していると思う。さらに工夫して取り組みたい。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	生徒に興味関心を持たせる工夫をしている。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<p>↓</p> 各担当は深い学びを達成させようと毎年努力している。しかし、最近の歴史総合、地理総合、公共、これらの科目は広く浅い内容であり、そこから深い学びを導き出すのは難しい。ある程度内容を精選させて、時間をかけないと生徒の興味関心は深くないところが、もどかしく思う。授業で興味をもち、生徒自身が調べるといった形が理想であると思うが、やはり興味関心を引き出す授業を心がけることが重要であるので、今後とも精進したい。		A

評価領域	数学科
------	-----

重点目標	(1)生徒一人ひとりが関心をもち、意欲的に参加できる授業を展開する。 (2)学習習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。 (3)週末や長期休業の課題を工夫し、学力の向上を図る。		P
現 状	(1)授業では集中力が続かない生徒もいる。 (2)家庭で学習する習慣がない生徒が多く、基礎学力が定着していない。 (3)課題を提出を課しても解答を写すだけだったり、そもそも提出できない生徒がいる。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板やタブレットを活用して生徒が集中できる授業の展開方法を研究する。</li> <li>課題の出し方を工夫し、学習習慣の定着を目指す。</li> <li>課題の未提出者に対して教科担任だけでなく、多くの先生方の協力を得る。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>I C Tを活用した授業展開を授業に取り入れる。</li> <li>書き込み式の問題集や週末課題、単元の小テストを複数回課すことで学習習慣の定着を図る。</li> <li>課題の提出状況を学年部や部活動の顧問とも共有する。</li> </ul>		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北大会などの学校外の行事に参加し、先進的な取り組みを学んだ。</li> <li>週末課題や小テストの実施は各教科担任が工夫して、回数や内容を生徒のレベルに合わせて実施した。</li> <li>課題の提出状況を教室に掲示するなどして多くの教員の目に触れるようにした。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>他校の取り組みを本校の生徒の実態に合わせるどころまではできなかった。</li> <li>欠席した生徒の対応に課題が見られたが、学習習慣の定着が見られた。</li> <li>課題の提出状況については共有できた。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	A	生徒の学習状況に合わせて授業内容や課題の設定ができた。自校の実態を踏まえてできることを模索したい。	C
評価基準	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた    B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	生徒のレベルに合わせた取り組みを行っている。継続してほしい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後)	生徒の学習状況や実態の把握に努めたい。特に基礎的・基本的な数学的事項の内容について把握したい。どこでつまづいているのかをはっきりさせた方が、高校数学の理解にスムーズにつながると考える。		A

評価領域	理科
------	----

重点目標	1 自然の事象・現象について問題解決の活動に主体的に取り組む力を身に付ける。 2 予想や仮説を基に、見通しを持って観察、実験に取り組み、実学を通し理解を深める。 3 ICTや実験観察を自身の資料作成に活用する技量を高める。	P
現 状	1 知識から発展的内容に移行する力が不足している。 2 単元に沿った実験観察及び演示実験を実施している。 3 電子黒板等、視聴覚機器を利用している。classroom を利用し、課題の提出や添削を行っている。	
具体的な目標	1 身の回りの事象と授業の内容を関連付け、生活に応用されている技術を理解させる。 2 実験観察を定期的に行い、操作等も含め、実験技術を身に付ける。 3 ICT機器を活用し、実験データをまとめる技量を高める。	
目標達成のための方策	1 講義形式だけではなく、ICT機器を用い、生徒が主体的に動く授業展開も心掛ける。 2 ICTを活用した教材の研究開発を行い視覚的にも理解を深める。 3 生徒、教員がICTを活用する能力を高め、実験データ等のやりとりを通し、細部まで効果的な学力向上を推進する。	
具体的な取組状況 (1～2月記載)	物理、化学は昨今のテクノロジーの発展と併せ、時事ニュースを取り入れながら教科書の内容を展開している。生物、地学分野では人間の身体や地球環境など、身近な例を提示しながら興味を持って授業に臨めるよう工夫をしている。	D
達成状況 (1～2月記載)	電子黒板やデジタルデータを有効に活用しつつ、プリント、問題集などの演習を通し、アナログとの両輪を図っている。課題の提出をクロムブックで行い、生徒と共有することで、効率的な学習効果を図っている。	
自己評価 (1～2月記載)	B 単元によって定期考査の平均点のばらつきが見られる。次年度以降、特に計算問題演習ではTTを有効に活用した授業展開を模索していく必要がある。	C
評価基準 A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A 効果的な授業を行っている印象です。デジタルデータとアナログを活用し効率的に学習していることに安心感があると思います。 自然現象や普段の生活の中でもその知識は大いに役立つものであると思います。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	電子黒板を有効に用いながら板書も行うことによってスムーズに授業を展開できている。カレンダーの都合上、クラスによって実施時数の差が激しかった今年度であったが、余裕を持った計画を立て、プリント等、問題演習にも積極的に取り組ませていきたい。 板書を行う生徒の速度に個人差があるため、時間配分を考えること、一方的な講義だけにならないようにすることが今後の課題である。	A

評価領域	保健体育科
------	-------

重点目標	各種運動の合理的な実践を通して、運動への興味関心や運動を主体的に行う能力などの生涯スポーツの基礎的な資質を養う。		P
現 状	運動に興味を持ち積極的に取り組もうとする生徒が男女問わず増えている。技能の向上を図り、「できる」喜びを味わわせることで運動習慣の定着につなげたい。		
具体的な目標	自ら運動の計画を立て、グループごとに主体的に実践し、振り返る活動をとおして、運動に主体的に取り組む能力を育てる。		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に振り返りの活動を行えるよう学習カードを工夫する。</li> <li>・運動の苦手な生徒に対しての支援の方法を工夫する。</li> <li>・タブレットを活用した振り返り、技能のポイントなどの情報収集を充実させる。</li> </ul>		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な振り返りについて記載する欄を充実させた学習カードの作成。</li> <li>・タブレット等を活用した動画による即時フィードバックの充実。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上競技（1年短距離走、2年ハードル走、3年幅跳び）では動画による即時フィードバックが非常に有効であった。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	B	12月に球技大会を実施（以前は8月）するようになってから3年間の体育の総括として球技大会を実施できるようになり、授業が以前より充実しているように感じる。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画撮影の活用は面白い取組だと思う。それを見ながら即改善につなげることは簡単ではないと思うが、デジタル機器活用については可能性を感じる。</li> <li>・若い内は体力的に自信があるかもしれないが、日頃の運動習慣は健康上必須。</li> </ul>	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯スポーツの基礎作りの観点から引き続き、自ら運動の課題に気付き、改善策を考え、実践し、振り返るような場の設定を工夫していきたい。</li> <li>・夏場の暑さが近年異常なほどになっている実態を踏まえ、カリキュラムの配置を再検討したい。</li> </ul>		A

評価領域	芸術科（音楽・美術・書道）
------	---------------

重点目標	芸術の諸活動を通して生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め芸術の諸能力を伸ばし豊かな情操を養う。		P
現 状	興味関心の高い生徒は、表現や発表に積極的に取り組み、新たな技法や ICT など表現方法の習得を進めている。自分らしい表現を楽しんでいる生徒が見られる。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の表現を「探究的に進める」ことができる課題や技能習得ができる授業内容を研究し実践する。</li> <li>・科目間連携を図りながら、複合的・横断的学習を実現する。</li> <li>・生徒が互いの表現を認め合い、芸術を愛好する雰囲気を作る。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々のレベルに合わせた、自分の表現を探究できる授業展開。</li> <li>・生徒相互が認め合い楽しめる環境をつくる。</li> <li>・少人数、選択性の良さを生かし、個性を生かす指導をすすめる。</li> </ul>		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術Ⅰ、Ⅱを通し、技能や表現を深めるカリキュラムを計画し、授業を展開した。</li> <li>・「芸術文化鑑賞」等では科目の枠にとらわれない作品や文化を鑑賞し、周りの生徒と関心や感動を共有する体験を進めた。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽、書道、美術の3科目がそろった状況を生かし授業を展開した。生徒もレベルや個性を生かした授業選択ができています。適性と合致して優れた発表や制作を行う生徒も多かった。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	A	・アンケートからも、楽しんで授業に臨んでいることが窺え次年度の進め方にも今年度の方法を継続してゆきたい。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	心を豊かにする分野です。自ら楽しんで芸術に触れることは素晴らしい成果です。豊かで人生がひろがります。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	楽しみながら自己の表現に取り組むことのできる生徒も多く、個性的な発表や作品が見られた。個々の生徒はもちろん、学年ごとの雰囲気や意欲にも違いは見られる。生徒の特性を観察しながら、次年度以降もこれまで取り組んだ課題や展開を生かしつつ授業を進めたい。 次年度以降も総合学科として音楽・書道・美術と三つの芸術科目の特色を生かした展開を望んでいる。		A

評価領域	英語科
------	-----

重点目標	1 基礎事項の定着を図り、進路に応じた学力の向上を図る。 2 英語で積極的にコミュニケーションを図る態度を育成する。		P
現 状	単語や文法が十分に定着していない生徒が多いが、ペアワークなどの言語活動に意欲的に取り組む。こうした現状を踏まえた効果的な学習活動を提供することで基礎力の向上に期待が持てる。		
具体的な目標	1 間違いを恐れずに自ら意欲的に英語で発信する力を身に付けさせる。 2 基礎学力の定着を図るため、計画的に週末課題を与える。 3 各種検定試験の受験を奨励することで自ら学ぶ意欲を高めさせる。		
目標達成のための方策	1 学習内容に応じたスピーキング活動を継続して行うことで英語でやり取りをすることの楽しさを体感させる。 2 週末課題を継続して与え、基礎学力の定着を図る。 3 授業で定期的に実用英語技能検定の問題演習を行いながら基礎学力の向上を図ることで受験への意欲を喚起する。		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	1 クロムブックを利用して発話を録音するなどして自分の現状を理解させながら学習に取り組ませた。 2 週末課題を基にした小テストを行い基礎学力の定着に取り組んだ。 3 継続して問題演習を行うことで基礎学力の向上に努めた。		D
達成状況 (1～2月記載)	1 生徒のスピーキング活動への抵抗感が減ってきている。 2 定期考査の成績が良くなっている生徒が多い。 3 基礎学力が向上している生徒はいるが、検定受験には至っていない。		
自己評価 (1～2月記載)	B	CAN-DO リストの学習到達目標と生徒の英語力の現状を確認しながら今後も英語力の向上に励ませたい。	C
評価基準	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	色々な学習方法でやる気を起こさせている印象である。実際に効果が出ていると思われるので継続していただきたい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	英語に対する苦手意識を少しでも解消したいという英語科の方針に基づき、各教員が日々工夫を凝らした授業を心がけている。その点を評価していただき有り難いことである。今後も本校生徒の英語力が少しでも伸びていき、コミュニケーションツールとして将来英語を使いこなしていくための方策を教員間で共有し、日々の授業に生かしていきたいと考えている。		A

評価領域	家庭科
------	-----

重点目標	家庭生活に関する基礎的な知識と技術を体験的に習得させ、豊かな家庭生活のあり方について理解を深めさせるとともに、これからの社会に対応できる能力と態度を育てる。		P
現 状	道具や食材の扱い方など基本的な内容を始めとし、生活経験に個人差が見られる。自ら課題を発見したり、解決したりすることは難しいが、実習など体験的な学習に対しては意欲的に取り組む生徒が多い。		
具体的な目標	普通教科「家庭」：授業で学んだことを普段の生活で実践し、よりよい生活につなげようとする態度や能力を育成する。 専門教科「家庭」：資格取得指導に力を入れ、基礎的な知識・技術の習得を活用できる応用力を身につける。		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を充実させ、実生活につながる効果的な授業を工夫する。</li> <li>・家庭科技術検定（食物調理・被服製作・保育）の合格率100%を目指し、指導を工夫する。</li> </ul>		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭基礎では12月までの学習内容を踏まえてホームプロジェクトを冬休みの課題とした。実践的な具体例を事前学習として確認した。</li> <li>・資格取得に力を入れ、受講者全員の合格を目指した。食物3級では検定に対応したDVDを事前学習として活用した。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物、被服など実践が伴う内容に、特に意欲的に取り組んでいた。ホームプロジェクトでは食事づくりを中心に取り組む様子があり、家事全般できるようになりたいなど前向きな振り返りが多くあった。</li> <li>・検定の合格率は、3級は食物・保育が100%、2級は被服（50%）、食物（92%）であった。上級級の難しさを実感した。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	B	検定に対応したDVDは有効な学習教材であった。引き続き事前事後の指導に力を入れ、実習の充実につなげていきたい。	C
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた    B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	社会人や家庭人としての基本の理解を確実にし、また、検定合格を目標に努力することは効果的なことだと思いますので、引き続きお願いします。	C
自己評価・学校関係者評価に基づいた改善策	家庭や地域の一員としての基礎となる土台を築けるよう今後も実践を交えながら一年次の「家庭基礎」の授業を進めていきたい。 また、専門科目では成功体験を得て自信がつくよう検定の合格を目指し、事前事後の学習を工夫するなどの検討をしたい。		A

評価領域	情報科
------	-----

重点目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動をつうじて、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育てる。		P
現 状	情報伝達の必要性を考え、理解するうえで技術的な部分を学んでいる。		
具体的な目標	(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技術を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結びつきをして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。		
目標達成のための方策	小グループでの活動によって、お互いに話し合うことで、苦手な部分も克服できる。		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本ソフトのスキルアップを定着する。</li> <li>Life is tech Lesson を利用し、個人が自分のペースで自己実現学習の定着をはかる。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Word、Excel、Power point の基本スキルが定着できた。</li> <li>チュートリアル形式の学習は生徒にとって取り組みやすいものであった。昨年度より定着度・進捗が速く進むことができた。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	B	基本ソフトの定着や自己実現学習の定着ははかれたものの、プログラミング学習への取り組みが実現できなかった。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	社会人として必要不可欠なスキルだと思うので、正しく理解させ、今後も取り組んで欲しい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	2単位しかない科目なので十分なスキルを伝えられないことに悔しさはあるものの基本的なスキルは伝えられていることと信じている。毎年、伝えるべき内容を厳選して、広い分野を伝えていきたいと考えている。		A

評価領域	農業科
------	-----

重点目標	農業に関する基礎的な知識や技能を座学と体験的な学習の両面を通して習得させ、農業クラブ活動や地域貢献事業に参加しながら個々の進路目標の確立と進路実現へと繋げる。		P
現 状	農家出身者が少なく、農業後継者としての入学者も少ない。小学生の頃の農業体験や体験入学等が選択理由となっている生徒が大半で、農業を将来的な職業と意識している生徒が非常に少ない状態ではある。しかし、確実に農業科学系列の希望者は増えている状況にある。		
具体的な目標	(1) 農業クラブ活動各種大会への積極的な参加 (2) 地元小学校への『野菜の出前講座』や『ゆりほんマルシェ』等への積極的な参加（産学官連携等）。 (3) マスコミへの積極的な発信		
目標達成のための方策	(1) 『意見発表会』や『家畜審査競技会』への参加の為に補習等を行う。また地元企業等との連携を図りながら、各種発表会への教材へと繋げる。 (2) 地元小・中学校との繋がりを活かした授業展開を行う。 (3) 広報、CATYV、新聞社、テレビ局への投げかけを積極的に行う。		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	(1) 『意見発表』や『家畜審査競技会』の指導を計画的に行った。 (2) 地元小・中学校の学習活動内容を理解し、連携を密にした。 ※野菜出前講座、花苗定植等の連携事業 (3) 広報、CATYV、新聞社、テレビ局への情報提供		D
達成状況 (1～2月記載)	(1) 『意見発表』『家畜審査競技会』は入賞はできなかったが、数年ぶりに『意見発表』に出場できたので今後は入賞を目指した指導をしていきたい。 ※産フェアへ出場(優秀賞)、農業技術検定3級3名合格 (2) ①西目小学校『野菜植え付け講習会』参加 ②西目中学校『草花植え付け講習会』参加 ③『ゆりほんマルシェ』参加 ④小・幼保のサツマイモ掘り学習の機会の提供 (3) 広報(2)、CATYV(2)、新聞社(2)、テレビ(1)に取り上げられた。		
自己評価 (1～2月記載)	A	生徒達の活躍の場を増やし、発信することが出来た。次年度は更に取り組み方を工夫し、上位入賞を目指したい。	C
評価基準	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	計画されていた取組に対して効果的に活動できた印象です。今後の活躍にも期待しています。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	①人類に必要な食料生産は、その量と質の確保のために連綿と続けていく必要がある。 ②計画されていた取組に対して効果的に活動できた印象です。次年度の目標も明確になっているようなので今後の活躍にも期待しています。これらの意見からも、非常に地域に期待されていると感じている。今後も新しい取組を地域に発信しながら、農業という角度からも地域に信頼される学校を作り上げていきたい。		A

評価領域	工業科
------	-----

重点目標	地域振興局と由利建設業協会と地域との連携を密にし、明確な進路意識や職業観の育成を目指し、工業（土木系）への積極的な進路選択ができるようにする。		P
現 状	昨年は公務員が3名であった。今年度は2名の希望者がおり、県外の公務員を希望している生徒もいる。地元定着を見据えて、1年次から目標を定めて着実に学力を高める必要がある。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公務員希望者全員第一希望への合格</li> <li>・授業を展開しながら国家試験合格率を全国平均より高い測量士補40%、2級施工管理技術80%の合格率の達成をめざす。</li> <li>・ジュニアマイスター取得者の増加</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得のために授業の内容を1年次のスタートから取り入れることで生徒のモチベーションを上げていく。</li> <li>・地域振興局と建設業協会連携した事業を実施し体験させる。</li> </ul>		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の就職希望者との面談を実施する。地域行事の測量大会や現場見学を年間で2回以上実施できた。公務員由利本荘市土木、秋田県庁土木職への合格を達成することができた。</li> <li>・新事業として中学生体験入学での建設機械の操縦を取り入れた。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	コロナ禍前の平成30年に測量士補合格者7名以来1名合格することができた。ジュニアマイスターブロンズ、ゴールドを受賞することができた。今後も更に新しい仕掛けを試みていきたい。		
自己評価 (1～2月記載)	B	国家資格である測量士補、施工管理技術検定の合格をめざし継続して取り組みたい。ゴールド受賞を増やしたい。	C
評価基準	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	B	由利本荘市でも今後即戦力となる技術者、管理者の育成は急務であると感じている。活躍を期待したい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	1年では専門教科をよりわかりやすく授業を行い、2年次より公務員模擬試験を受験させて自分の実力を熟知し不得意分野を克服できるように指導している。普段の授業から公務員試験に対応した分野は特に時間をかけて理解できるまで何度も繰り返し学習するように指導している。2年次の1月から就職希望者の面談を実施し保護者の意見、本人の希望を聞いている。国家資格合格率を上げるために時間を多く取り入れて対策していきたい。		A

評価領域	商業科
------	-----

重点目標	商業の見方考え方を働かせ、実践的体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育てる。		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的体験的な学習活動に対し、お互いに協力して取り組んでいる。</li> <li>・各自のレベルにあった検定目標を立て、合格しようとする姿勢がうかがわれる。</li> </ul>		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的体験的な学習活動の問題解決に対して、主体的に取り組む姿勢を育む。</li> <li>・各種検定試験に合格し、上級の資格取得に挑戦する態度を養う。</li> </ul>		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の主体性を尊重しつつ、要所で適切な指導をする</li> <li>・生徒一人一人の習熟度を見極め、合格圏内の受験級を適切にアドバイスする。</li> </ul>		
具体的な取組状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部機関や地域と連携を図り、実践的体験的な学習活動の機会を作った。</li> <li>・生徒の実情に合わせ、各種検定の種類によって主催団体を変更するなどして、資格取得に挑戦する意欲向上に努めた。</li> </ul>		D
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的体験的な学習活動は全員が意欲的に取り組み、職業人として必要な資質や能力が身についた。</li> <li>・学年によって検定合格に対する努力に差を感じるものの、概ね目標とする受験級の実力はついてきた。</li> </ul>		
自己評価 (1～2月記載)	B	商業科内で達成目標や生徒の情報の共有を図り、組織として個に応じた指導ができた。	C
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者評価と意見	A	目標設定に対する方策や取組が具体的で、生徒個々に応じた指導も達成できている。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的体験的な学習活動は、生徒が身に付ける職業人として必要な資質や能力を高めるため、地域の大学や企業、由利本荘市との協力関係を継続して築いていきたい。</li> <li>・資格取得の合格率を上げるため、家庭学習の取り組み方や模擬問題の提示のしかたなどを、商業科全員でアイディアを出し合い検討していきたい。</li> </ul>		A